

福祉だより

ぬくもり

●発行/北六甲台地区社協●発行日/偶数月●編集/北六甲台地区広報部●配布エリア/北六甲台・上山口東

第97号
平成30年2月22日

西宮市北六甲台地区
社会福祉協議会
会長 日高 昭夫

北六甲台 & 上山口東の住宅街

■介護者の会で独り住みの高齢女性から庭木の処理や草抜きができなくなっているという声がありました。同席のボランティアコーディネーターが手配して、よりよいサポートからボランティア

共生の町の風景

■介護者の会で独り住みの高齢女性から庭木の処理や草抜きができなくなっているという声がありました。同席のボランティアコーディネーターが手配して、よりよいサポートからボランティア

第八次地区福祉計画

あるがままに生涯を 年頭所感

会長 日高昭夫

■民生委員の高齢者実態調査で認知症の舅さんを懸命に介護するお嫁さんのお話を伺いました。気の休まることのないお嫁さんの息抜きの場があればと思います。山口地区の認知症カフェの立上げが着々と進んでいます。■民生委員の健やか赤ちゃん訪問で中国出身の若い



アを派遣し、困りごとが解消されました。■施設から住宅街の盆踊りに車椅子の障がい者が参加したいという要望が伝えられました。地区社協で受入れを準備し、当日の盆踊りの輪に車椅子で加わるお二人の障がい者の姿が見られました。

■独り住まいの高齢女性の認知症が進み、日常生活に支障が出始めました。ケアマネジャーの呼びかけで民生委員、ご近所の方、ヘルパー、趣味の会の友人、あんしん窓口や介護施設の職員、ご家族等が一堂に会し、多面的な支援を話し合いました。



ママに地域の子育て支援事業を紹介しました。近くに身寄りや知人のいない異国での二カ月児の育児はどんなに孤独で不安なことでしょう。社協の子育てサロンを案内しました。数日後のサロンに同月齢の赤ちゃん連れのママと楽し気に寛ぐ中国人ママの姿がありました。



■会員減少と役員確保に苦慮する子ども会のクリスマス会をオヤジ会有志が応援しました。オヤジ会メンバーのクリスマスソングの歌唱とコマ回しの特技に会場が湧きました。ゲームの運営にオヤジたちが加わり、例年ない子どもたちと祖父世代との交流がありました。

高齢者の五人に一人が認知症という時代がやってきます。認知症が日常生活の「コマ」となる日が遠くありません。認知症をあるがままに受け入れる地域づくりが求められます。同様に高齢者も障がい者も介護者も子育て世代も、あるがままに生涯を暮らせる町が必要で

「共生」とは「共に生きて共に生かされる」ということだと思います。ハンディを負った人に寄り添いながら自分自身も生かされる…。

年頭の所感です。

盆踊り指導

南柿 鈴子さん



毎年、盆踊りの指導にあたっておられる南柿さん。日本舞踊・新舞踊の千翔流で研鑽し、千翔有珠（せんしゅうゆうじゅ）を名乗り、国立文楽劇場で舞を披露されるなど、ご活躍されています。そんな南柿さんと踊りとの出会いは、北六甲台自治会主催の盆踊り大会。まだ住民全員を対象にした行事がなかった頃「誰もが気軽に参加できる催しを」と開催されたのが盆踊り大会。南柿さんも太鼓の響きに引き寄せら

北六甲台子ども会のオヤジ会支援

十二月十六日（土）、北六甲台小学校の体育館において「北六甲台子ども会」のクリスマス会が行われ、オヤジ会のメンバーがお手伝いしました。オヤジ会のメンバー、竹田さんによるクリスマスソングの弾き語りや、昔懐かしいコマ回しに、参加した子どもたちは目を輝かせていました。また、スプーンリレーでは、旗竿代わりにオヤジ会のメンバーが立ち、ビンゴゲームでは、賞品

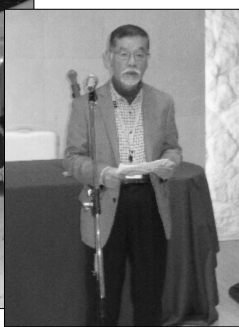


の受け渡しの交通整理をするなど、オヤジ会のメンバーも若返り、楽しい時間を過ごしました。（広報部・小出 晴浩）

障がい者・児支援部「青い空」のクリスマス会

十二月二十五日、「青い空」のクリスマス会があり、初参加の私は、朝からドキドキわくわく。先ずは、スタッフ全員でお昼のちらし寿司と豚汁を作り、出来たてを参加者の皆さんと一緒にいただきました。その後、恒例の大正琴の演奏が始まり、優しい琴の音色に合わせて全員でクリスマスソングを歌っていると、サンタクロースが登場！参加者の方は、サンタクロースからプレゼントを受け取り、にっこり。最後に、ケーキとお茶をいただき、身も心もほっこりした一日でした。来年は、皆さんも一緒にいかがでしょうか。（障がい者・児支援部 鈴木 緑）





北六甲台地区社協の田中副会長の司会進行のもと、まず、日高会長の挨拶となりまして。

日和に恵まれて

授、レックススタッフの挨拶などがありました。

関学落研の高座

落語の一席目は、四笑亭楽満さんの演目「竹の水仙」。演目に入る前の「まくら」では、会場に



会場からは、孫を見るような温かいまなざしが感じ取られ、主催者側として、微笑ましさを感じ

平成二十九年度ふれあい交流会



義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からわからない方がいます。そうした方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなるよう、西宮市では「ヘルプマーク」の普及に取り組んでいます。また、援助が必要な方に「ヘルプカード」を配布しています。

「ヘルプマーク」普及の取り組み

- 電車やバスの中で、席をお譲りください。
- 駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします。
- 災害時は、安全に避難するための支援をお願いします。

問合せ先：西宮市障害福祉課（西宮市役所本庁舎1階）TEL：0798-35-3194

西宮市からのお願い

山口地区の「認知症カフェ」

立ち上げ着手

山口地区での「認知症カフェ」立上げに向けて、今年度内のオープンを目標に準備が進んでいます。市社協地区担当、地域包括センター、介護事業所、こーぷこうべなどとともに福祉ネットも立上げ実行委員会に参加しています。

「認知症カフェ」とは、認知症に関わる関係者（当事者、介護者、専門職、地域住民）が地域でつどい合う場です。徐々に地域とのつながりが希薄になりがちな当事者本人にとっては安心して地域とつながれる居場所であり、軽度の場合、カフェ運営に関わることで進行の抑制が期待できます。何かと気苦労とストレスの多い認知症介護者家

族には閉ざされた家庭空間から解放され、共通の悩みや苦勞を抱えた介護者仲間との交流の場を提供します。ストレスや愚



痴を語り合う事で寛ぎや癒しのひと時に繋がります。常駐の専門職に気軽に相談することも可能です。

常駐するケアマネジャー、介護福祉士、社会福祉士、看護師、保健師等の専門職には、今後対応が求め

三席目は、笑流さんと櫻鷺亭鎌蝶さんによる掛け合い漫才で、演目は「よっさん」。こちらも盛況のうちに終え、会場は朗らかな笑い声で包まれています。



お弁当を囲んで

落語の後は、美味しいお弁当をいただきながら和やかに談笑される姿が見られました。寒い季節はご近所同士でもお互いに顔を合わせることが少な



られる機会の多い認知症当事者との生きた交流と相談の機会になります。

運営に関わる住民ボランティアについては、認知症ケアについての意欲や志を持った参加が期待されています。介護経験や介護資格を生かしたい、将来の認知症介護に備えたい等々。既存の団体からの派遣でない自らの意思による参加が前向きなカフェ運営を支えるモチベーションとなります。

実行委員会では、現在カフェの運営をお手伝い頂けるボランティアを募集しています。月一回平日の十三時から十六時頃までこーぷ西宮北店三階組合員集会所でお手伝いの可能な方、ぜひご連絡下さい。

【連絡先】

〇七九八六一一三六一
西宮市社会福祉協議会
担当：高田

（日高・記）

無事に会を終えて

今回の落語について出席者の方にお伺いしたところ、「よかった」とのご意見を賜りました。また、「お弁当もおいしかった」とのお声も頂戴しました。

関学生に尋ねたところ、落語を話す時間は依頼内容に合わせて、長くも短くもでき、比較的自由に時間の調整ができること。今後の参考になると思います。

事前の準備も含め、お手伝いをされたボランティアの方々、お疲れ様でした。また、今回、金銀の折り鶴を配した箸袋をご提供くださった障がい者支援施設「のぞみ」の方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

（広報部・小出 晴浩）